



Meloe auriculatus Marseul, 1876

# 日本甲虫学会 Coleopterological Society of Japan

HP: <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/coleopterology>

Twitter 日本語アカウント: <https://twitter.com/kochugakkai>

英語アカウント: <https://twitter.com/Coleopt Soc Jpn>

会員限定ページ: <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/members-only.html>

(ユーザー名:、パスワードはさやばね和文誌さやばね 41号(2021年3月25日発行)およびニュースレターのメール配信版 40号(2021年7月31日送信)に掲載しています)

## コロナ禍での学会活動

### できること、やれること、あれこれ

日本甲虫学会 会長 大原昌宏

コロナ禍は収束するどころか、さらに悪化している状況ですが、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。大正7年(1918)のスペイン風邪の時も、2年目、3年目に大きな被害が出ますので、「疫病は簡単には収束しない」というのが(現代はワクチンがある時代ではありますが)、歴史から学ぶ現実なのかもしれません。

前回の挨拶文では、コロナ禍での学会活動、個人の研究活動の可能性について、私見を書かせていただきました。今回は、もしかしたら、あと2年は続くかもしれないコロナ禍の時代に、実際に行動に移せる活動について記したいと思います。これは私個人の会長としての(個人的な学会活動への)行動指針でもあります。

**(1) 東京例会、名古屋例会、大阪例会を、オンラインで結び、全国だれでも参加できる例会として、活性化したい。**さらに、年に3回程度の「甲虫学を学ぶオンライン講座」を企画できればと思います。これはコロナ禍が過ぎた後も、継続して実施できるのではないかと思います。

**(2) 今年の大会を機に、海外の甲虫研究者との連携を深めたい。**さらに国際的な甲虫学者ネットワークへの貢献を学会として果たしたい。例えば、北米甲虫学会などの海外の甲虫関係学会と了解覚書(MOU)を結ぶなど。オンラインに慣れた今こそ、海外とつながるチャンスかと思っています。

**(3) 日本甲虫学会グッズの開発と販売。**日本甲虫学会の会員の帰属意識向上と新会員勧誘の広報活動として。コロナ禍と関係なく、個人的にやってみただけですが。

さて、幾つ実現できるかわかりませんが、とりあえず、個人的試案ですので、これから幹事会、評議員会の皆さんの同意を得た上で、進めたいと思っております。(3) はあまり現実的ではないかもしれませんが。今後とも、会員の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

熱波のような暑さの中、札幌の夏の夕べに、クーラーのない北大の研究室にて記す(ちょっと暑さで頭がボーとしています。室温 33 度)。

---

**日本甲虫学会 ニュースレター 第 40 号**

2021 年 7 月 31 日発行 ※本ニュースレターは主に HP の更新履歴に基づき、プレーンテキストにて不定期でメール配信しています。以後の配信停止ご希望の方はご連絡ください。過去の更新履歴も、PDF でご覧いただけます。

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/newsletter/newsletter.html>

(web 担当：初宿・山本 [webmaster@kochugakkai.sakura.ne.jp](mailto:webmaster@kochugakkai.sakura.ne.jp))